

志布志港 心頭再編改良事業

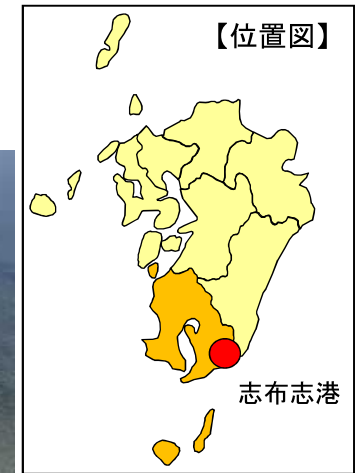
国土交通省 港湾局

【事業の目的】

南九州地方の畜産業に必要な配合飼料の原料等として用いられる穀物の企業間連携による大型穀物船を活用した共同輸送の進展に対応するため、志布志港において、既存施設の老朽化対策と併せて港湾施設の整備を行う。

【事業の概要】

- 整備内容 : 岸壁（水深14m）、航路及び泊地（水深14m）、ふ頭用地、荷役機械
- 事業期間 : 平成29年度～平成33年度
- 総事業費 : 106億円（うち、港湾整備事業費 : 82億円）



《位置図》

《整備スケジュール》

港名	地区名	区分	施設名	H29	H30	H31	H32	H33
志布志港	新若浜	直轄	岸壁(水深14m)	■	■	■	■	■
			航路・泊地(水深14m)			■	■	■
		起債	ふ頭用地		■	■	■	■
		その他	荷役機械				■	■



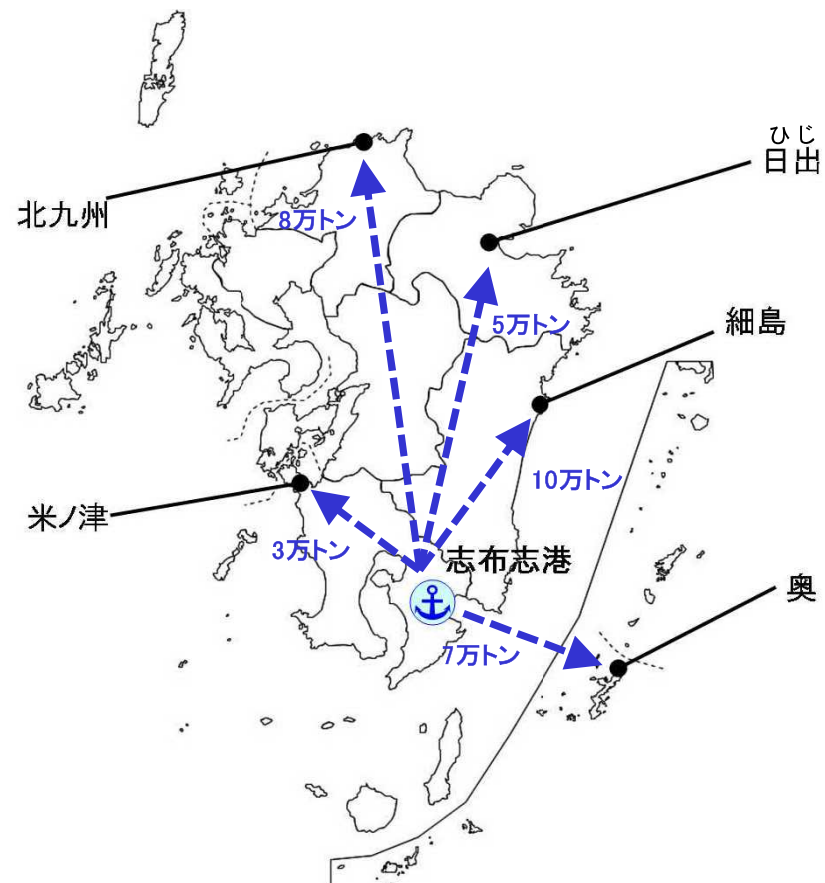
志布志港の概況

志布志港は、背後の企業により、飼料コンビナートが形成され、南九州・沖縄地方一円の穀物の輸入拠点として、重要な役割を果たしている。

志布志港の背後企業の立地状況



志布志港に輸入される穀物の主な移出先(平成26年)

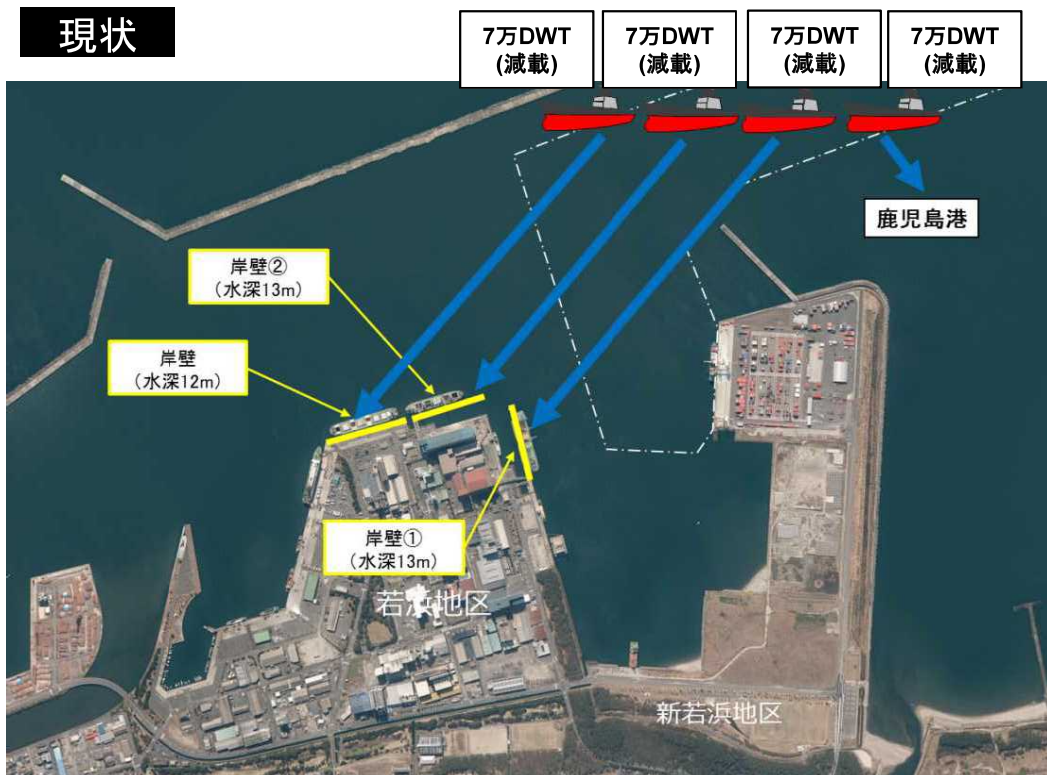


(出典) 港湾統計およびヒアリングより、国土交通省港湾局作成
 (注) 穀物とは、麦、とうもろこし、豆類、その他雑穀、その他農産品

① 共同輸送による効率的な輸送体系の構築

志布志港においては、国際バルク戦略港湾選定以降、港湾背後の穀物関連企業間の連携や鹿児島港との港間連携による共同輸送の取組が進展するとともに、こうした取組に合わせ、民間企業による飼料製造工場や物流施設等への設備投資も行われており、穀物輸入拠点としての関係企業の協力体制が構築されつつある。

現状



南九州地方
沖縄地方

二次輸送

各港各地区に単独輸送により穀物を輸入

将来



南九州地方
沖縄地方

二次輸送

岸壁(14m)を經由した共同輸送により穀物を輸入

②既存施設の老朽化への対応

- ・若浜中央5号岸壁、若浜南1号・2号岸壁については、エプロンの沈下等の老朽化が進行しており、利用上の安全性の確保を図るためには、多大な費用を要するとともに、将来にわたって維持管理コストの増加を招く恐れがある。
- ・将来の維持管理コストを抑制するためには、ふ頭再編による老朽化施設の不荷役化と機能移転・集約が必要となっている。

《ふ頭再編による機能移転・集約(イメージ)》



若浜中央5号岸壁の老朽化状況



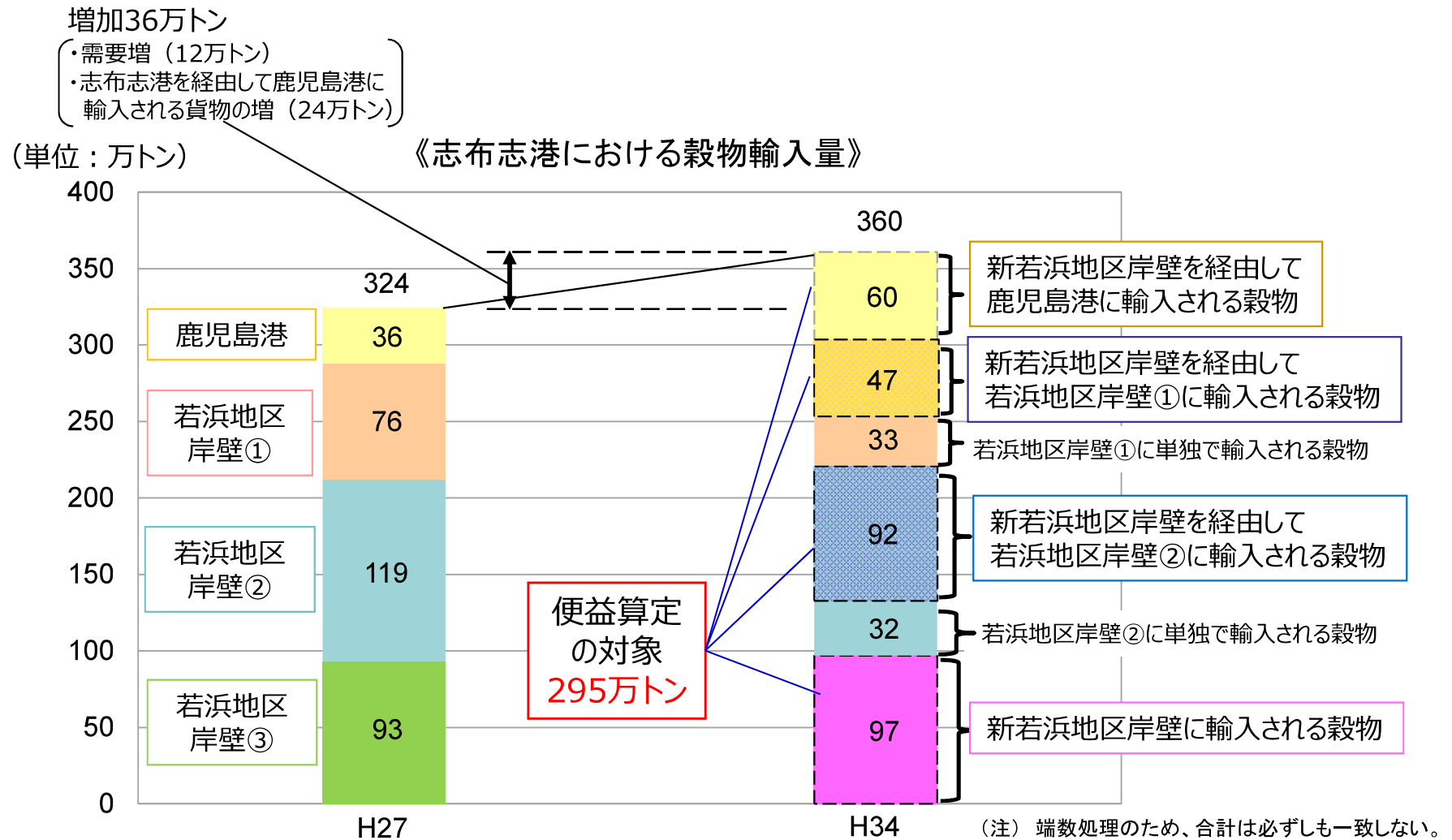
若浜南1号・2号岸壁の老朽化状況



費用便益分析における貨物量等の設定

企業ヒアリングの結果をもとに、将来貨物量(単独輸送、共同輸送の別含む)を設定。本事業に伴い、新若浜地区岸壁に、より大型の船舶が入港できるようになること及び新若浜地区岸壁を拠点とした共同輸送が行われることを踏まえ、

- ・新若浜地区岸壁に輸入される穀物
- ・新若浜地区岸壁を経由して若浜地区岸壁①、若浜地区岸壁②、鹿児島港に輸入される穀物を船舶大型化による海上輸送コスト削減便益を計測する便益対象貨物とする。

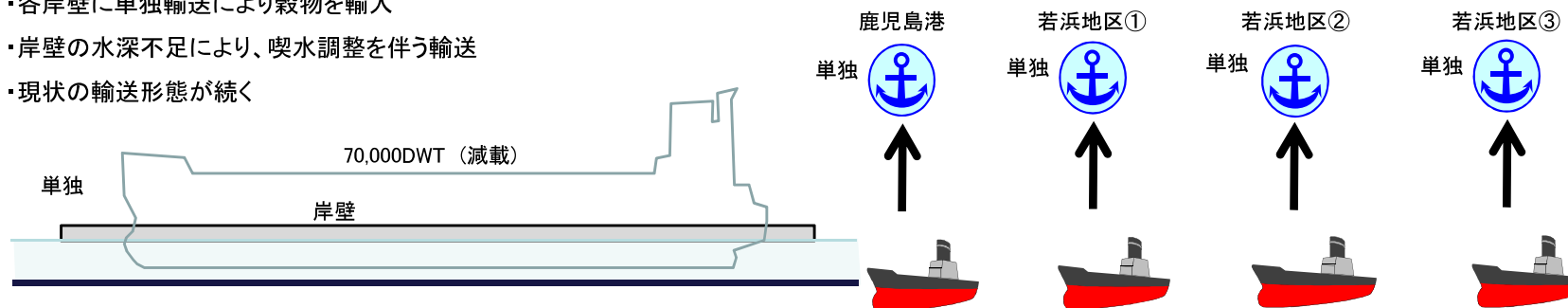


船舶大型化による海上輸送コスト削減 359億円

大型船舶が入港可能となり、共同輸送を行うことにより、海上輸送コストが削減される。

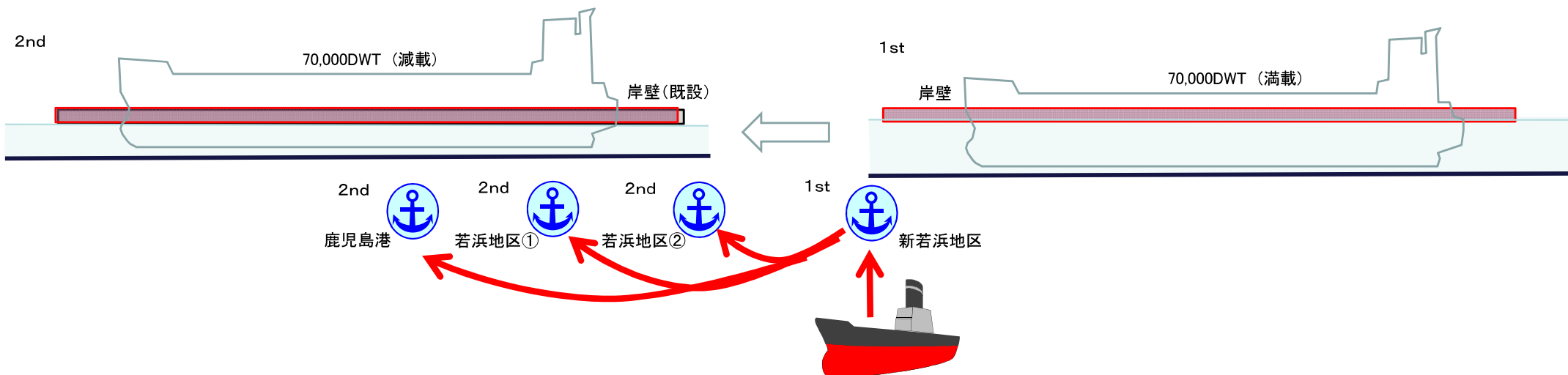
without時

- ・各岸壁に単独輸送により穀物を輸入
- ・岸壁の水深不足により、喫水調整を伴う輸送
- ・現状の輸送形態が続く



with時

- ・新若浜地区に大型船が入港可能な拠点を整備し効率的な共同輸送



費用便益分析の結果（現在価値化後）

	項目	評価期間内 便益・費用(億円)
便益	船舶の大型化による海上輸送コスト削減	359
	ふ頭用地・荷役機械の残存価値	3
	小計	<u>362</u>
費用	事業費・再投資費	95
	維持管理費	8
	小計	<u>103</u>

費用便益比(B/C)	3.5
純現在価値(B-C)	259億円
経済的内部収益率(EIRR)	16.4%

注：端数処理のため、合計は必ずしも一致しない。

【①飼料の安定的かつ安価な供給体制の構築、産業競争力の広域的な強化】

本事業により、穀物輸入の拠点性が高まることで、穀物から製造される飼料の南九州地方への安定的かつ安価な供給体制が構築され、畜産業の産業競争力が広域的に強化される。

なお、本事業が実施されない場合には、大型船による効率的な輸送が実現しないため、畜産業の競争力低下を招くとともに、我が国が進めている畜産業を含む農林水産業の輸出力強化戦略にも悪影響を及ぼすことも懸念される。

【②既存施設の老朽化への対応】

老朽化が進展している若浜ふ頭の岸壁の機能を再編・集約することで、港湾施設の維持管理費用の縮減が見込まれる。

【③環境への負荷軽減】

貨物の輸送効率化により、CO₂、NO_xの排出量が低減される。